

生き物からしる天気

むかしの人たちは、みじかにあるものや、そのようすから天気を知っていました。

「ゆうやけはハレ」といういいつたえをきいたことはありませんか？これは空のようすを見て天気を知っているわけです。また生き物から天気を知るいいつたえもあります。

ツバメが低く飛ぶと雨

雨が近づくと、空気がしめってきます。すると、こんちゅうは羽がおもくなるので低いところを飛びます。そこで、こんちゅうをエサにしているツバメも低く飛ぶというわけです。

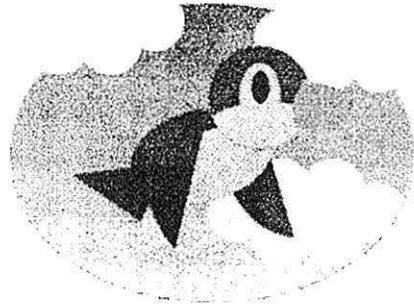


ネコが顔をあらうと雨

雨が近づくと、ネコの高さにしっけがつきます。それが気になり、さわっているようすが「顔をあらう」ようにみえるのです。

ひばりが空高く飛ぶと天気がいい

ひばりがおなじ高さでないていても、天気がよく、空気の中にしっけが少ないときにはなき声が高く聞こえます。そこで、いつもより高く上がっているようにみえるのです。



ほかにも、もずが木にさしたエサの地面からの高さから冬の雪の深さがわかるという、「もずのはやにえ」などのおもしろいいつたえがたくさんあります。

みなさんも、しらべてみてください。